

事業名： 予防接種経費（子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン）

保健センター 管理係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	02 健康づくりの推進								
基本事業	01 疾病の早期発見、早期治療及び予防の促進								
開始年度	平成22年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民のうち中学1年生から高校2年生までの年齢に相当する女子
- ・市民のうち生後2か月から4歳11か月までの乳幼児

手段（事務事業の内容、やり方）

- 各種ワクチンごとに、接種開始年齢に応じた回数接種費用を全額補助する。
- ・子宮頸がん予防ワクチン（中学1年生から高校2年生までの年齢に相当する女子に対し3回）
 - ・ヒブワクチン（生後2か月から6か月までの者に対し4回、生後7か月から11か月までの者に対し3回、生後1歳から4歳11か月までの者に対し1回）
 - ・小児用肺炎球菌ワクチン（生後2か月から6か月までの者に対し4回、生後7か月から11か月までの者に対し3回、生後1歳から1歳11か月までの者に対し2回、生後2歳から4歳までの者に対し1回）

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

接種費用の負担を軽減をすることにより、接種しやすい環境が整備され、子宮頸がん、ヒブ及び肺炎球菌感染症の予防が図られる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	中学1年生から高校1年生（高校2年生）までの年齢に相当する女子の数	人	3,189	1,157	1,035	0
対象指標2	生後2か月から1歳11か月（4歳11か月）まで乳幼児の数	人	3,836	3,943	3,587	0
活動指標1	子宮頸がん予防ワクチン接種件数	件	6,243	1,622	137	0
活動指標2	ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種件数	件	7,186	5,760	5,666	0
成果指標1	子宮頸がん予防ワクチン接種率	%	58.1	52	5.6	0
成果指標2	ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン平均接種率	%	48.4	27.8	21.6	0
事業費(A)		千円	158,599	72,215	47,726	0
正職員人件費(B)		千円	3,210	3,206	3,125	0
総事業費(A+B)		千円	161,809	75,421	50,851	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種（市内医療機関へ委託） ・予防接種についての周知等 	接種委託料等 47,354千円 事務費 32千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
国の予防接種部会における意見や国際動向、疾病の重篤性等にかんがみ、予防接種法上の定期接種化に向けた準備事業として対象年齢層に対し緊急にひととおりの接種を提供するとの国の方針を受け、市民の疫病予防のため、平成23年2月1日より市の実施要領に基づき事業を開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年4月1日より、ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種対象者を生後2か月から4歳までに拡大した。 ・子宮頸がん予防ワクチン接種対象者についても、接種対象者を中学1年生から高校2年生までに拡大した。 ・平成23年度末までの事業終期が平成24年度末まで延長され、経過措置対象者（平成24年度における高校2年生）のうち、平成23年度中に初回接種を受けた場合に限り対象とした。 ・平成25年4月より、3ワクチン全てが予防接種法の定期接種に位置づけられた。 ・平成25年6月に、子宮頸がん予防ワクチンについて、国から接種の積極的な勧奨を中止する旨勧告が出された。 ※平成26年度より事務事業評価表をNo. 121「予防接種経費」に統合	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由根拠 接種費用の公費助成により、ワクチン接種が進み、市民の疾病予防と医療費の縮減に繋がることから、市が実施する事業として妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由根拠 対象年齢期におけるワクチン接種により疾病予防の効果が期待でき、基本事業の「疾病の早期発見、早期治療及び予防の促進」に対する貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンについては市民への情報提供に努めており、当初計画どおりに接種が進んだ。 ・子宮頸がん予防ワクチンについては、平成25年6月に国から接種の積極的な勧奨中止の勧告が出され接種が控えられている状態であり、引き続き国の動向を注視し適切に接種事業を進める。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由根拠 子宮頸がん予防ワクチンについては積極的な勧奨の中止が継続されているが、ヒブ・小児用肺炎球菌については、定期接種に位置づけられたこと及びワクチン供給体制の安定により、接種率向上が期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある なし	理由根拠 ワクチンの価格が下がらない限りコストの削減は困難であり、接種料金に受益者負担を求めることは、接種率低下を招き事業効果を低下させると考える。